

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成29年4月10日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4694500028
法人名	社会福祉法人 建昌福祉会
事業所名	グループホーム西始良ほほえみ
所在地	鹿児島県始良市西始良1丁目39番32号 (電話) 0995-73-7855
自己評価作成日	平成29年3月3日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	平成29年3月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者のこれまでの暮らしぶりが入居した後も継続できるように支援することを大事にしている。

例えば、これまで行きつけであった病院や理美容室、お店、行き来のあった友人や近所の方々、民生委員をはじめとした協力者との関係性は、本人のこれまでの暮らしの中から築き上げられた重要な財産である。これらは、グループホームに入所したからといって途絶えてるものであってはならない。また、私たち職員が無意識的に断ち切ってしまうということでもない。関係性を継続させることや過剰な管理・無駄な制限を取り払う努力をしていくことで、私たちが掲げている理念「毎日をその人らしく」に近づけると考える。

日々の暮らしの中で、これまで行ってきた生活行事である味噌作り、あくまき作り、そば打ち、しめ縄・門松作りなど、様々な作業を通じて、人に自分の体験や技術を伝えるということが、「役割」や「やりがい」を感じてもらえる機会となりえる。できる事に着目し、まだまだできることはある事を認識してもらい、入居者の可能性を信じて支援にあたっている。これらの事も理念の具現化につながるのではと考えて取り組んでいる。「ほほえみ職員心得十か条」の具現化に向けた研修等も実施し、職員自身が入りたいと思える施設づくりに取り組んでいる。隣接している学童クラブにしあいらや西始良小学校との交流、地域の方々との交流を積極的に実施しています。平成29年度のは認定こども園が隣に開設し、ますます園児たちとの交流が盛んになります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは始良市郊外で近隣には大型商業施設が出来るなど、買い物やドライブには事欠かない場所に位置する大型団地の入り口に立地している。

周辺には小学校・学童クラブなどが隣接し開設以来子供達と利用者の交流があり、子供達の明るい声が聞こえる環境にあり、環境に恵まれたホームである。

開設以来地域とのつながりを大切にし、自治会に加入し地域との交流も地域行事に出かけたり、地元の馴染みの友人・知人との触れ合いの機会を多く持てる支援をしている。ホームの行事である避難訓練にも地域住民の参加を得られている。また地域の公民館で地域に向け、認知症に対する理解と知識を広める講習会も開催するなど地域での役割を担い貢献している。

開設時からの勤務の職員もおり、研修や勉強会で質の向上が図られやりがいを持ってケアに励んでいる。

地域に開かれたホームとして地域密着型サービスの主旨を捉えたグループホームである。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	毎朝、朝礼時に読み合わせを行っています。職員心得十か条を作成し、検討会等の際に念頭に置き、話し合いをするようにしています。	毎朝唱和し、ミーティング等でも話し合い職員は意識付けし共有と実践に繋げている。「職員心得十か条」も重度化になり利用者中心から職員中心になる事もあるので、職員は意識しながらのケアに努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入会させていただき、定期的な回覧版を持って届けたり、認知症の勉強会を開催したり顔が見える関係づくりをしています。また、自治会行事にも参加させてもらっています。	地域との繋がりは開設以来続き、回覧板の活用で行事案内や公民館で認知症の勉強会も開催した。老人会のボランティアの方が清掃に来られたり、近隣の小学校や学童クラブとの交流、また体験学習の受け入れもある。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	認知症の勉強会を開催し、認知症の理解を深められるようにしています。また、入居者の徘徊行動に付き合い、挨拶したり、されたりの良好な関係を築いています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に毎に地域の代表者様、民生委員、地域包括職員、市役所職員、学童クラブ管理者、ご家族様に呼びかけて、運営推進会議開催しています。事業所の取り組みやそれぞれから意見を頂きより一層質の高いサービスへつながるように生かしています。	定期的な会議には、地域代表者・民生委員・行政・学童クラブ管理者等の参加でホームの現状報告や経過報告等を行っている。家族全員に呼びかけをしてるものの参加が少ないのが課題となり、今後は開催曜日を変えるなど家族が参加できる会議となるよう検討中である。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にはご参加いただき、認知症への理解や加算等についてのご助言等を頂いております。	市担当者とは面談や電話などで指導や助言など頂いている。ホームの取り組み等は、運営推進会議で定期的に報告している。相談や連絡などで連携を図り、協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的には夜間以外は、施錠をせずに、可能な限り利用者の行動に合わせた支援を行っております。また、室内においても、過剰な制限や管理が働かないように、ご家族を含め自由な出入りを意識する等外からの目も意識しております。	年1回の研修がある。身体・言葉による弊害を重んじており、勉強会をして職員は意識を高めたケアに努めている。ヒヤリハットも再発防止に向け適切に報告し、検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者様の声や表情、身体の傷等がないか確認すると共に、私達職員が加害者にならないように勉強会や普段からのミーティング等で話をしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見等を利用している入居者はいませんが、勉強会等に参加し、必要時に適宜利用支援が行えるようにしていきたいと考えています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>制度改正等で内容が変わる場合には、適宜、別紙説明書類を作成し説明にあたっています。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>法人として年1回、苦情要望の第三者委員を交えた検討会議を実施するように定めており、苦情要望の内訳数値を公表するようにしています。またそれを基に支援内容等の見直しを行っています。</p>	<p>利用者からは日常の会話を通じて思いや意見を把握するよう努めている。家族からは面会時や行事等の参加時に意見を聞けるようにしている。出された事項は職員で話し合い運営に反映させている。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>朝礼やミーティング等で自由な意見を求めています。入居者様の視点、優先順位等を考えながら改善を図っています。</p>	<p>管理者は日々の申し送り時やミーティング会議を通じて職員の意見・要望の把握に努めている。出された意見や提案気づきは業務改善やサービス向上に繋げるように取り組んでいる。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>研修会、勉強会を企画し定期参加を促しています。また、実践研究会を開催し、法人全体の前で取り組みを発表する場を設け、モチベーションアップにつなげております。職場環境においては、処遇改善、定時退勤を実施しております。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>資格取得の支援、OJT、実践研究発表の取り組み、階層別研修に参加をして取り組んでいます。また、外部研修にも参加して質向上に取り組んでいます。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>ネットワーク会議や連絡会などに参加し、意見交換やイベント企画を通して地域連携を目的とした取り組みを実施しています。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>基本的には、入所前に面談等を積み重ねながら顔見知りの関係を構築するように配慮し、不安や心配の軽減を図るようにしている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>ご家族の預けてしまったという後悔や申し訳なさを受け止めつつ、ご家族にできることはご協力をもらいながら共にご本人の支援をしていくことで関係づくりにつなげている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>ご本人、ご家族と話をしながら何が当面大事なのかを共に考えながら優先すべきことを決定するようにしている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>ご本人の気持ちやタイミングを大事にしながら「できる」ことで貢献してもらえる機会を作るようにしています。また、出来たことに対してしっかり感情に訴えかけるようにしています。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との接点はできるだけ多くしてもらおうようにしています。必要であれば一緒に泊まってもらうことも承諾しています。比較的家族の来所は多いと思われれます。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	冠婚葬祭の行事にはできるだけ参加することを奨めています。また、行き慣れたお店や理美容室等も出かけたり、ご友人の面会も奨めています。	利用者の友人・知人の訪問もある、また冠婚葬祭への参加も状況に応じて支援している。電話や手紙の取次も行っている。理美容室には家族が連れて行くなど家族との協力体制も出来ている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者間の潤滑油になれるように職員が介入しています。しかし、お互い認知症があり擦れ違いも多くありますので、タイミングやイベント事などアクションも大事にしています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院後、退去になったご家族や亡くなった後のご家族のフォローを行っています。また、継続的な支援の必要性があれば、フォローにあたっていきます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時や検討会の際は、ご本人のこれまでの暮らしぶりの情報を集めると共に、繰り返される言動から上手く表現できない本音の部分を探るようにしています。	入所時の生活歴の情報や家族からの情報また日々の関わりの中で、利用者の希望を聞いたり表情やしぐさなどから思いや意向の把握に努めている。それでも困難な時には本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族からこれまでの仕事や経歴等を含め情報収集を行うと共に、これまで支援をされてきた関係機関の持つ情報も大事にして、支援に生かす様に努力しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人、ご家族、職員から情報収集し、状況を確認しています。できることできないことを見極めて支援に生かしています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人ご家族と介護職員と話し合いを持ち、時々来る知人や親戚にもお話を聞きながら、介護計画等を検討しています。往診に来られる先生に状況を報告しつつ、意見を頂いています。	利用者・家族の意向や医療機関等、関係者の意見もふまえた介護計画を作成している。家族や地域も共に支える支援を組み込んで個々に応じ、現状に即した介護計画を作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	排泄関係においては日々の心身状態の変化やBPSDに直結しやすいので、記録を振り返りながら排泄の促しや水分摂取の声かけに繋げ、かかりつけ医とも連携をとりながら実践に生かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに応じた対応が必要な場合には、できるだけ応じるように努めています。買い物支援や外出希望、病院受診の支援とご家族にも協力を頂きながら柔軟な対応をとっております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりの地域資源の把握については十分ではないが、地域行事や隣接する児童クラブ、小学校などの交流を通じて見える関係を築くようにしています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診には基本ご家族に対応して頂き、今までの関係性を継続しながら支援を行っています。ただし、ご家族対応が難しい場合には協力医の往診をお願いしている。受診の際には、日々の様子やバイタルサインの記録を添付し適切な医療を受けられるよう支援している。	利用者や家族の希望するかかりつけ医となっている。受信同行は家族となっているが急変時は家族とホームでの受信支援となる。受信時には日々の様子がわかる「情報提供書」を持って行き、適切な医療を受けられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護師を配置しているので24時間連絡が取れるようにしています。日々の状況を確認しながらかかりつけ医との連携を図っており、必要に応じて受診等の同行や情報提供を実施しております。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院時には、いったん口頭で必要な情報を伝達し、入院手続き等が落ち着いた段階で必要な情報を書面にて提供しています。また、退院時のカンファレンスに参加させてもらい適切な情報をもとにサービス提供を行うよう努めています。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化については、その都度ご家族やかかりつけ医と話し合いながらその時の事業所でできることを伝えるようにしている。看取りについてもご家族が希望されるのであれば話し合いを持ち、ご家族にも協力を頂きながら対応しています。ただし、高度な技術を要したり、医療ニーズが高い状態においては、現実的には難しい。</p>	<p>重度化や終末期に向けたホームの指針を作成しており、入所時に家族に説明をしている。看取りの経験もある。ホームで出来る最大限の支援を職員全員で共有しているが、医療との状況によってはその体制構築がホームの今後の課題となっている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>ミーティングの中で事故発生時の対応について勉強会や消防訓練等を活用して実施している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>今年度は法人エリアごとで桜島噴火に伴う防災訓練を実施している。火災における避難訓練を年2回実施しています。</p>	<p>年1回消防立ち合いの避難訓練、さらに年1回自主訓練を行っている。昼間の訓練には地域住民も協力参加しているが夜間体制となると場所が離れているので困難である。備蓄備品やスプリンクラーの設置もある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室の入退室時の声かけノック、入室する事への挨拶を実施しています。排泄時には外に出て待つ等の配慮をしています。一人で入浴をしたいという入居者についても安全を配慮しながら要望に応えられるようにしています。	利用者の人格を尊重し、自尊心・誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めている。特に入浴や排泄時などさり気無いケアや言葉かけで羞恥心や尊厳に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の希望に応じるように配慮しているが、なかなか思いを伝える事が難しくなっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の要望や意向に対しては極力それに沿うように配慮しているが、どうしてもマンパワー不足の面もあり、職員側のペースに流されている面もあります。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	基本は入居者様自身に選んでいただきますが、どうしてもちぐはぐな衣類を選んでいるために職員が支援することが多くなっている。カットやパーマに連れて行くのが困難な場合は訪問理美容にて対応している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の気分やタイミングによりますが、簡単な手伝いを頂いたり、味付けの確認、盛り付け、配膳、後片付けと手伝って頂いています。	旬の食材を使用して彩りのある食事メニューにしている。ちまきや蕎麦打ちまた菜園の管理など利用者の力量に応じて参加してもらっている。家族支援で外食される方もいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好みを聞き、バランスよく食事摂取できるように声をかけし支援を実施している。採血を実施した際には栄養状態についてもかかりつけ医と連携を図っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	今までの入居者の生活習慣によるところがありますが、基本毎食後の口腔ケアを推奨しています。ただ、強制はしていないので入居者の事情に合わせています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	夜間オムツを使用している入居者も排泄能力に応じて、日中はトイレに座り、排泄が出来る様に支援を行っています。	利用者の様子観察や排泄チェック表の活用で、排泄パターンを把握し可能な限りトイレで排泄出来るよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	今までの生活習慣の中で便秘であった入居者には、薬に頼わざるを得ないことがあります。食事の工夫や飲み物、運動などの対策も行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴は本人の希望に応じて楽しめるように配慮しています。また、入居者同士で入りたいと希望があればそれに応じています。	週2回の入浴であるが、利用者の体調や希望に添った入浴が出来るよう対応している。入浴剤の活用などで気持ちよく楽しんで頂けるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	心地よい環境で休息をとってもらうために室温調整や明るさ等に配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情の綴りで情報の共有化を図っています。排便コントロールに関してはその日の状況等で調整をせざるを得ません。職員の連携を図りながら支援を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	そば打ち、味噌作り、あく巻作り、しめ縄等昔からの生活習慣の中で受け継がれてきた作業を中心として、伝える喜びや役割を感じて頂く機会を作っています。子供たちの交流は楽しみにしています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気分転換を図る意味において、地域の馴染みの場所に連れ出しています。個別においても希望があればその場所に行ける限り連れて行っています。難しい場合にはご家族にお願いして対応してもらっています。	利用者の希望に添って日常的に散歩や日光浴・買い物・ドライブなど、外に出かけて楽しんで頂いている。家族の協力で帰宅や墓参りの支援もある。利用者の行きたい場所へは連れて行くなど個別での支援もしながらホーム内に閉じこもらない生活を支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>多額の現金の管理は他者に渡す危険性が高く忘れてしまうので、数千円単位の少額を持っていたりして、買い物へ出かける事もある。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>電話の要望等もあるため適宜支援を行っている。また、年賀状を出し合い等、つながりを感じてもらえるような支援を実施しています。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節感が出るような装飾を入居者にも手伝ってもらいながら作成して飾っています。</p>	<p>台所は対面式で利用者の様子が十分に把握できる、リビングは広く明るくテラスへは自由に出入りできる様になっている。壁には季節を感じる飾りや行事の写真・手作り作品などが掲示されている。ローカには畳の長椅子が置かれ何気に腰掛ける場となっている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>玄関、ホールにソファを置き、気の合う入居者同士が話をされたりくつろいだりされています。廊下にも椅子を置き自由に会話できるよう工夫しています。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>これまで使用されてきた家具やテレビ、写真など使い慣れた物を持ち込んでもらい、それぞれが好きなように配置し使用して頂いている。</p>	<p>利用者が使い慣れた家具・寝具・時計・ラジカセ、また日記を書かれる方はテーブルや椅子も持ち込みされている。プライバシーを大切にしながら自分の部屋として落ち着きゆつくりと過ごせるよう配慮されている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>玄関の段差と畳の段差が一番大きいものであり、その他はあまり大きな段差はない。玄関では座って靴が履けるように椅子を準備しています。トイレ、浴室、廊下など手すりを設置し安全と自立への配慮をしています。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
		○	3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
		○	3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない